

# 比の繊維グッズできた



学生たちがデザインし、フィリピンの住民や京都の障害者が製作したクッションとバッグ(京都市左京区・京都造形芸術大)

## 京都造形芸大と下京のNPO

京都造形芸術大(京都市左京区)の学生とNPO法人フェア・プラス(下京区)がこのほど、フィリピン特産の繊維「アバカ」を使ったクッションとバッグを作った。学生がデザインを担い、フィリピンの住民と京都の障害者施設が製作に携わったフェアトレード製品で、同大学内のショップなどで販売している。

## 学内、関空で販売 障害者や現地住民支援

海外の貧困層と国内の障害者の支援を目的に、フェア・プラスが大学に提案。昨年からの授業の一環で取り組んできた。ヨンの綿詰めなどを担ってきた。学生たちは昨秋フィリピンを訪れ、現地住民の技術やものづくりへの思いに触れた。新関西国際空港会社(大里町の住民15〜20人)から販売面で協力を得ることになり、同社と意見交換を重ね、アイデアを練ってきた。出来上がったのは、ライフジャケットの装着方法を図柄にした黄色いクッションと、日本とフィリピンの出入国スタンプをカラー印刷した白いバッグ。繊維の染色や縫製、プリントはフィリピンで行い、左京区の障害者支援施設「テンダーハウスの利用者がクッション

(逸見祐介)